

財団インフォメーション

第16回「助成研究吉田秀雄賞」決定 「吉田秀雄賞」2年連続の選出

当財団は、第16回「助成研究吉田秀雄賞」の受賞者を決定しました。本賞は、当財団が行っているマーケティングおよびコミュニケーションに関する研究助成事業の成果の中から特に優れた研究を顕彰するものです。選考委員会（選考委員長：亀井昭宏早稲田大学名誉教授）による厳正な審査の結果、2017年度に当財団が助成した研究成果（常勤研究者の部5件、大学院生の部3件）の中から、下記の方々が受賞。6年ぶりの選出となった昨年に引き続き、最高賞の「吉田秀雄賞」が選出されました。

贈賞式は、11月9日（金）アドミュージアム東京で開催しました。



受賞者の方々（前列4人）と選考委員長・副委員長（後列中央2人）

受賞者一覧

常勤研究者の部

（肩書は論文提出時のもの）

賞	研究テーマ	研究者名
吉田秀雄賞 （副賞100万円）	「ソーシャルマーケティングによる移植医療の課題解決 ～臓器提供意思表示率の向上～」	代表研究者 瓜生原葉子（同志社大学商学部准教授） 共同研究者 岡田 彩（金沢大学国際基幹教育院准教授）
奨励賞 （副賞10万円）	「マーケティング・コミュニケーションの ビッグデータ分析による新市場創造戦略」	代表研究者 西本章宏（関西学院大学商学部准教授） 共同研究者 勝又壮太郎（大阪大学大学院経済学研究科准教授）

大学院生の部

奨励賞 （副賞10万円）	「倍音の力に着目した音楽の クロスモーダル効果に関する研究」	西井真祐子（早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程）
-----------------	-----------------------------------	----------------------------

※常勤研究者部門の準吉田秀雄賞、大学院生部門の吉田秀雄賞 / 準吉田秀雄賞は該当なし



受賞者の瓜生原葉子氏（左）と当財団理事長



受賞者の西本章宏氏（中央）、勝又壮太郎氏（左）と当財団理事長



受賞者の西井真祐子氏（左）と当財団理事長

2018年3月末をもって研究が終了し、財団事務局宛てに研究報告として論文が提出された助成研究は8件（内訳は常勤研究者の部が5件、大学院生の部が3件）。この中から特に優れた研究成果を顕彰すべく、今年度で制定されて16回目を数える「助成研究吉田秀雄賞」の該当論文を選定するための選考委員会が、去る10月2日（火）の正午より選考委員13人中10人の出席を得て開催された。

選考対象の論文は、まず選考委員とは別個の外部有識者2人による予備選考に付され、その結果を踏まえて、選考委員会の仁科貞文副委員長、財団事務局責任者および私で討議を行い、上位の評価を受けていた常勤研究者の部で4編、大学院生の部で1編の論文を最終選考に付することになった。

計5編の論文は、約1カ月半の審査期間を設けて選考委員全員にそのコピーを配布し、評価の結果（得点と該当賞）を書面で提出していただく手順がとられた。そして、10月2日には評価結果の集約資料を手元に、約4時間にもわたる白熱した議論の下、改めて綿密な選考・評価が行われた。その結果、常勤研究者の部では、瓜生原葉子・同志社大学商学部准教授を代表研究者とし、岡田彩・金沢

大学国際基幹教育院准教授を共同研究者とする研究「ソーシャルマーケティングによる移植医療の課題解決～臓器提供意思表示率の向上～」に「吉田秀雄賞」を、また、西本章宏・関西学院大学商学部准教授および勝又壮太郎・大阪大学大学院経済学研究科准教授による共同研究としての「マーケティング・コミュニケーションのビッグデータ分析による新市場創造戦略」に対して「奨励賞」を授与することに決定した。さらに大学院生の部では西井真祐子氏（早稲田大学大学院商学研究科）の「倍音の力に着目した音楽のクロスモーダル効果に関する研究」に「奨励賞」が授与されることとなった。

見事「吉田秀雄賞」を受賞された瓜生原・岡田論文は、最終選考の対象となった4編の論文の中で最高点を獲得していたばかりでなく、選考委員13人中11人の委員が、事前提出の評価表の中で「何らかの賞に値する」との見解を示していた力作であった。

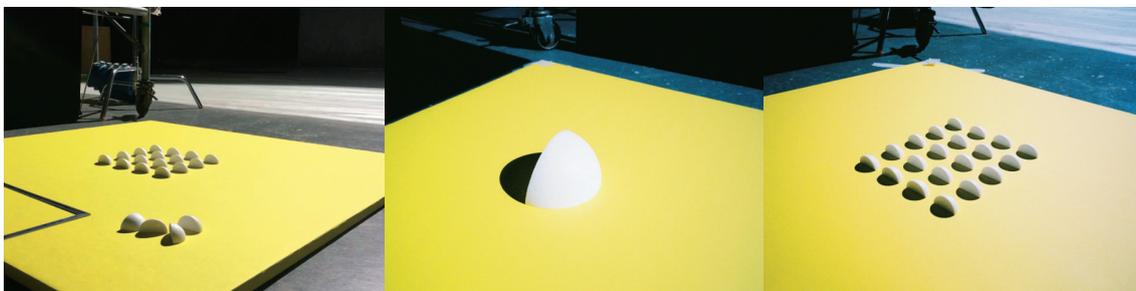
しかも、大半が「準吉田秀雄賞」以上に該当するとの評価であったが、選考委員会の席上で社会的にも意義のある研究内容であり、丹念な研究内容に対して十分に「吉田秀雄賞」に値するとの強力な推薦の辞が続出し、

その結果、出席委員のほぼ満票で同賞の授賞が決定したことは、選考に携わらせていただいているものとして誠に欣快の至りであった。

「奨励賞」に輝いた西本・勝又論文は、その論述の精緻さや論述構成の見事さに高い評価が見られた一方で、論述の難解さや実務面への貢献可能性などの点で惜しくも「奨励賞」となった。今後の展開が期待される研究である点では、高い評価が示されたことを付記しておきたい。また、大学院生の部で「奨励賞」に輝いた西井論文については選考委員の間で評価が真っ二つに分かれた結果が、残念ながら「奨励賞」にとどまった原因であった。真面目にテーマに取り組んでいる姿勢が評価された半面、実験研究としての条件設定や手続きが不十分な点の指摘が相次ぎ、僅差で同賞の授賞となった。

近年なかなか出現しない「吉田秀雄賞」受賞論文が昨年度に続いて今年度も登場したことは関係者の一人として大変喜ばしく感じたと同時に、この快挙が来年度以降も連続することを願わずにはいられない。研究助成受領者の先生方ならびに大学院生の皆さまのご奮闘を切に期待したい。

The Making of the Cover Design Vol.66
カバーデザインができるまで



編集後記

多様なスタイルを見させていただいたが、共通していたのは“目利き力”よりも“人とそのつながり”。自分たちの向かう目的と具体的な目標を持つことが、リーダーとその組織を強くしていく。これは多くの人々に当てはまるのではないかと。（傾）

今回の特集では、仕事を社会的な価値として考える機会を頂いた。「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」。以前話題になったこの言葉が、よりリアルに感じられた。（葡萄）

取材に応じてくださった起業家の皆さんが重視するのは、経済的数値ではなく、社会的インパクトという指標です。どのような社会を思い描き、そこにどう貢献するのか。この新しい尺度、価値観がより広く共有されることを願っています。（ひろた）

AD STUDIES 2018年12月25日号 通巻66号
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
〒104-0061
東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
TEL:03-3575-1384 FAX:03-5568-4528
URL: http://www.yhmf.jp

発行人 岩下 幹
編集長 布施博嗣
編集部 岩本紀子、沓掛涼香
編集協力 市川嘉彦、プレジデント社
表紙デザイン 八木義博+畠山大介、中谷晴子 (Creative Power Unit)
撮影 片村文人

本文デザイン 南 剛 (中曽根デザイン)
校正 株式会社ヴェリタ
印刷・製本 大日本印刷株式会社

© 公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
掲載記事・写真の無断転載を禁じます。